

<題名改め>



2009年2月にNHK-hiで放送された「笑劇開演～小林賢太郎テレビ」が、知ってる人しか知らないであろうATP賞の「情報バラエティ部門」の年間最優秀作品に選ばれた。そのご褒美か去年の夏、第二弾が放送された。

# 小林賢太郎 テレビ 1・2

小林賢太郎テレビ K. K. T. V. 2  
～ポツネン旅に出る～

2010年8月26日

KOBAYASHI KENTARO TELEVISION

- ・ 森の奥より
- ・ ポツネンの家  
「部屋から出ずに世界を旅する方法」ポツネン氏による挿絵と効果音
- ・ クイズ
- ・ ポツネン氏による「そうだけど」展
- ・ ドラマを装飾してみる
- ・ 3D

この7つのコントの合間にドキュメントを挟んで賢太郎のNY生活などを紹介した。番組を見て驚いたのは、賢太郎がNYで何か月も一人暮らしをしていたという事。リアル嘘が得意な賢太郎もこれはほんとのことみたい。どうりで横浜でも川崎でもばったり逢わないと思った。

NYの公園を歩きながら、旅行者と違うところはアパートメントにポストを持っているところなどと話す姿に賢太郎の生活を見た気でいたら、そのままポストに入っているエアメールが物語の続きとなっていた。

前のK. K. T. V. はドキュメントとコントの境をはっきり分けていたが、今回は曖昧にしていた。そんなだから、紹介されていた日記も当たり前に見せることを前提にした創作だと思っちゃうし、一人でNYで暮らしている話でさえ疑ってしまう。気持ちよくだまされるために舞台を見に行っているのに、だまされるまでは疑っている。悲しい性やね。

「森の奥より」「クイズ」は以前のポツネンのコント「ジョンと私」「史上最大アメリカ横断ウルトラなんとか」と入り口は同じ。出来栄は以前のものよりよくなっているかといえば、私はジョンの正体はわからないままのオリジナルの方がいいと思う。K. K. T. V. の1のように最後に「おおー」と驚かせてくれるところもなかった。…やばいっ、もしかして第2弾にしてK. K. T. V. に慣れちゃったのかしら(-\_-;) テレビに出る嬉しさと、賢太郎の面白さを測りにかけたら…。可愛いんだけど賢太郎…。去年の夏のことで忘れてることが多いからいけないのかな。

タモリが所属する田辺昭知（スパイダースのリーダー）の事務所のお笑い部門を独立させたトゥインクルコーポレーションは、ほぼラーメンズで持っている事務所。そのアウェイ部という新人に賢太郎がコント作りを教え込んだ。その内容を見るとこの前のラーメンズ公演よりラーメンズ色が強いようなコントだった。公演数日前まで売れ残っていたチケットは賢太郎がワークショップを開くと報じたとたんに完売。ラーメンズで持っている事務所じゃなくて賢太郎で持っている事務所でした。

K. K. T. V. の3があればそのときはもっとラーメンズ的なものでやってほしい。



## KKP(小林賢太郎プロデュース)

### 第7回公演「ロールシャッハ」

天王洲・銀河劇場

2010年11月18日(木) 19:00-21:20

～ゲストに Cacco さんを迎えちゃったのさ篇～

**TICA** 初めて Cacco さんと賢太郎の舞台を見に行ったら。銀河劇場に向かう電車の中で片桐仁が出演しないことを知って騒いでいた Cacco さん。そんな基本的情報も持っていないとは…。仁さんはKKPの舞台は最初の3本に出ていただけであとは出ていない。

3本目までは賢太郎の出演が少なく、4本目の大森南朋が出た「LENZ」から仁さんはでなくなり賢太郎が出ずっぱりになったのですよ。といっても、私が生の舞台でKKPを見たのは「ライト三兄弟」に続いてまだ2回目。「ライト…」は演劇色が強く、とってほしい話でもなく私的には空振り。その気合いの入らない姿勢で臨んだ次のKKP「TRIUMPH」はチケットが取れなかったのが久しぶりのKKP、久しぶりの銀河劇場。シーフォートスクエアという大きなビルの中に



ある都会的な劇場は、中に入ると凝った空間が広がっている。グローブ座がジャニーズならこちらはホリプロが母体。私は新大久保の韓国街を歩いて行った先にぼんとあるグローブ座の方が好きかな。

**Cacco** 銀河劇場は前にかずくとスタジオライブの公演に行ったことがあるの(大好きな萩尾望都先生の漫画を原作にした舞台)。バルコニー風BOX席があるちょっとおしゃれな劇場。ホリプロが母体だとは知らなかったけれど、わたしもグローブ座のがよかったな。新大久保の韓国街でTICAさんとトuppチゲでチャミスルが飲める!

**TICA** 最近の新大久保は若い女の子の街になっただけよ。ほら、カラーだとかモノクロだとか。おー、おやじギャグ(\*ノ▽ノ\*)  
劇場の好き嫌いが言えるだけで横浜とは大違い。横浜は文化が育たない。いつまで経っても東京を抜かせない。それどころか今に神奈川県一の都市は川崎になっちゃうかも。

**Cacco** 横浜で演劇を上演する会場ってどこ? って聞かれてもちょっと思いつかない。確かに文化育ってないのかな。悲しいな。コンサートだったら横浜アリーナがあるんだけどねえ。あの桑田君が日本でただ一か所カウントダウンライブをやるどころなんだけどねえ。サザンが休業に入る前のライブも日産スタジアムだったし。コンサートに関しては地元横浜充実してるよね。賢太郎も武道館クラスでやっちゃえばいいんだよね。と、なにしろ大きい箱にしか行ったことないわたし。



ボックス席(2階席、3階席)



客席2階席より



**TICA** 芝居小屋っていうくらいなもの。すごい有名な劇場でもせいぜい2000人程度でしょ。「武道館で賢太郎」は恐ろしいほど合わない。

さてさて、銀河劇場の舞台に話を戻して…。賢太郎たちが舞台に出て来ると、746席の会場は完全な静寂が緊張を呼ぶ。そこにごそごそバッグを探っている音が。Caccoさん、言ったでしょ、静かだって。いつもは大きな

舞台で大きな音の会場に身を置いているCaccoさんには信じられない雰囲気だったとはいえ飴ちゃんを探しちゃいけませんぜ。

**Cacco** そうなんです。TICAさんから聞いてはいたのに、いやー水を打った静けさで喉をゴックンもできない。うっと息も飲めない。もちろん、バッグの中の飴なんか探しちゃダメダメ。帰りに「お腹鳴ったの聞こえた?」ってTICAさんに聞いたら「しっかり聞こえた」って返事。おいおい、隣のお腹の音なんか聞いてないで賢太郎に集中してくださいよ。



**TICA** そこらじゅうでくうくうと聞こえるのはいつものこと。あの静寂は未だにわたしも慣れない。でも今回は最初から笑いどころがあったのでぐっと楽だった、あれでも。

「ロールシャッハ」というタイトルから、心理的な話が出て来るのかと思っていたら、鏡に映った左右対称の世界がテーマだった。

話の舞台はここではない世界。

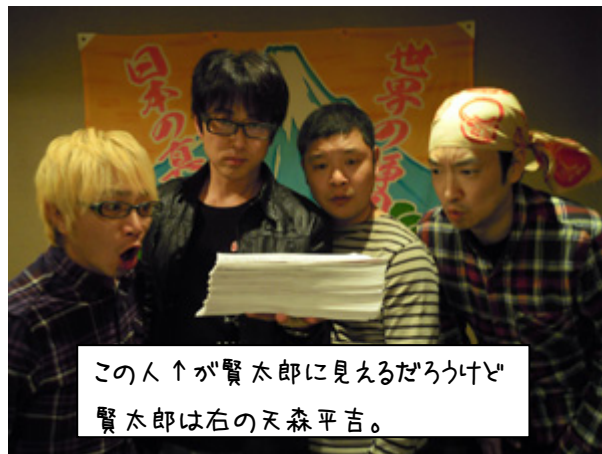
「それは遠い遠い、もしかしたらもの凄く近い、どこかの世界のどこかの国」。

世界の端にはどこまでも高く広くそびえ

立つ「壁」があった。開拓団に入隊した力自慢・壺田、気が弱いアニメおたく無職・天森、自分の意見を持たないチャラ男・串田の3人が更なる

開拓のため、その壁にロケットを撃ち込み穴をあける任務に臨む。開発隊の指揮官・富山の下、着々と準備を進めるが、やがて壁のむこうには今いる世界が映ったもうひとつの世界があることを知ってしまう。

壁の向こうにも自分たちと同じ人間がいることに悩むが「おれたちは向こう側のおれたちを撃たないのだから、向こう側のおれたちもこちら側のおれたちを撃たないだろう」という結論になり、真上に大砲を撃ち万々歳となる。



**TICA** なるのだが、それから先のことはどうなるんだろう。この4人が撃たない選択をしても誰かが撃つまでこの4人のような人たちはやってくるんじゃないだろうか。国はそう簡単に向こう側にあるものを諦めるとは思えないので、開拓団は人を変えてやってくる。ということは、この4人は撃つたのかもしれない。

**Cacco** 鏡の世界は同じものを映し出す。同じものだと油断していると、少しずつ少しずつラセン状にズレが生まれて、ある日気がつくと「撃たない」選択が「撃つ」選択になっているのかもしれない。ラーメンズの舞台っていうのはシニカルでウエットで遊びだったり真面目だったり。KKPの舞台はテーマがストレートでびっくりした。賢太郎のことだからストレートに見えて奥深いのもかもしれないけれど、なにしろ静かで、生茶をゴクンと飲む、自分の出す音ばっかが気になって。

**TICA** 鏡という仕掛けは、シンメトリーな名前や敬礼などの動きの全て反対にしてあった。実像は向こう側の世界でこちら側は虚像なのか？自分たちの意思で決めたことだと思っていることもただの実像の写しなのかもしれない。

**Cacco** 実像だろうが虚像だろうが、どっちもどっちも。

壺田、雨森、串田、富山という名前の共通性には全く思い至らなかった。あんな大きな垂れ幕に名前を書いて観客に見せるんだからピンときてもよかったよね。



ってTICAさんは気がついたんだっただよね？おいおいあたしにも教えてちょうだいよ。いくら会場静かだっただよ。

**TICA** よくいるんだよねー、一緒に来た人に説明してる人。ひそひそ声で話してるつもりでも、そばの人にとってはひじょーに迷惑。その場では気がつかないことがあとでわかったときに、おおーってなるのも気持ちいいじゃない。

終わった後に一杯飲みながら（ここ大事）そういう話するのが好き。にしても垂れ幕はやりすぎ。わからないならわからないままにしておけばいいのに、賢太郎はたまに過剰なサービスをするから、名前のシンメトリーに気がつかない人が多くてあとから足したんじゃないかと思った。

**Cacco** ところで、「ロールシャッパ」ってタイトルいいね。タイトルだけでいろんなことを想像するもの。あのスタンリー・キューブリックの名作「シャイニング」は左右対称映像が多用されていたような。あの人はシンメトリーフェチなんだね。

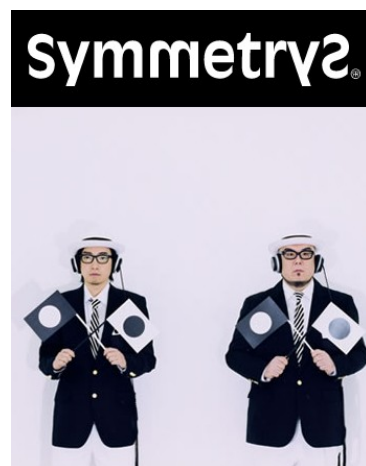
だってあの映画は双子のお話だもの。わたしはあなた、絶対的なバランス、実も虚もない。そういえば前回ここ銀河劇場で観た萩尾望都さんの「半神」もこういうお話だった。双子のバランスがズレていく、でもあなたはわたしっていうような。

**TICA** 賢太郎は左右対称の美しさが好きなのね。小宮山さんの宮っていう字のジョイント部分を悔しがると、シンメトリーズってユニット作ってCD出したくらい好きなんだもの。

こういうどうでもいいことを賢太郎はいつも探していて、その料理の仕方をいつも考えている。

**Cacco** 帰り際、KKPにきた記念にラーメンズバインダーを買いました（ほんとはラーメンズ大好き息子へおみやげです）。TICAさんは会場のスタッフさんにこっそり賢太郎へのおみやげを渡していました。いいなあうらやましいなあ。ビーズ習った甲斐があるなあ。明日賢太郎からお礼の電話が掛かってくるかも。夢広がるなあ。

**TICA** わたしはいつ賢太郎から連絡があっても大丈夫な姿勢でいるけれど、連絡先書いてないのよねん。



これを書きあげてから、【ポツネン SPOT】がDVDにならないわけがわかった。初演から一年経って【THE SPOT】として再演が決定した。いんい♪

それから、横浜文化を憂っていた私に賢太郎が教えてくれた。この1月に山下町に神奈川芸術劇場が出来たと。横浜あ！頑張ってたんだね(ノ口´)°・。

ということで早速チケット争奪戦が始まりました。

今年は、浜省もミスチルさんもツアーがあるので  
DGのみんながチケットを取れるように祈念します。なむう

